

▲ ▲ ▲ 小出俣山 ▲ ▲ ▲

西山 哲明

◎山行日 2021年4月19日

◎メンバー 西山

◎タイム

駐車場 6:44→7:32 千曲平橋 千曲平橋 7:32→9:08 黒檜 黒檜 9:08→10:44 小出俣山
小出俣山 11:11→12:59 千曲平橋 千曲平橋 11:59→13:48 駐車場

林道の脇を流れている小出俣沢川は、驚くほど澄んでいて、岩魚の気配を感じた。今回はここで竿を振りたものなど沢を見とれながら歩いていると目印の橋を見つけた。この先が登り口となるのだろう。登れそうな場所を見つけて上がってみると罫のマーキングがあった。傍によらないようにしながら左手に進むとはっきりとした尾根を見つける。赤澤さんからは“とにかく尾根を登ること”と言われている。地形図で確認すると間違い無さそう。落ち葉を踏み分け取付くことに、尾根はそれなりに急だが、このところクライミングばかりで訛っている足にはちょうどよい傾斜だ。ただ落ち葉が滑るので、早速持ってきたチェーンアイゼンを装着する、沢の詰めで買ったものだが、雪以外にもこのような落ち葉やザレ場にはかなり有効であり、滑ることがなく面白いほどサクサクと進める。

しばらく登ると雪が出てきた、初めは霜かとも思ったが、先日の雨で少しばかり積もったようだ。靴底は雪の団子になり歩きにくくなる、時折蹴り込み雪を落としながら進む、尾根伝いのため間違えることはないが、下りの時のためにピンクテープでマーキングしながら進む。

雪に薄く踏み跡がある。もしかしたら先週赤澤さんが途中まで登ったと言っていたので、その踏み跡かもしてしれない。この山は赤澤さんから教わった。自分も行って見たかったので確認したところ“是非行ってみてください。西山君なら4時間もあれば登れるから”と、赤澤さんはそんなつもりで言ったわけではないだろうが、4時間か！？と思い頑張ることにした。

このルートは赤澤さんが山の雑誌で紹介もしているの、見せてもらおうと自作の標識を立てたと記載があった。現物を見てみたいと思った訳である。だが他の人のブログなどを見てもそれらしき標識はない。もしかして雪に埋もれているかとも思い、シャベルとプローブもザックに入れておいた。もしかしたら見つからないかもしれないが、だが、こういうトレジャーハンティングの登山は心が踊るものだ。

黒檜の樹林帯に入り休憩とレイヤリングを調整する。風が思ったより強い、谷川だからしょうがないよなと思い、ミッドレイヤーを脱いで雨具を着込む。

1400m少し手前で岩場に出くわす。ここは右に巻くよう勧められていた。岩をみると登れなくはないが、上がってからの藪が密集しているので、直登はやめて素直に右に巻くことにした。岩を左手に進み適当な場所から根曲がり竹を頼りに無理矢理登り込む。危険というほどではないが、靴底の雪団子を落しながら登らないと、滑って谷へ落ちてしまいそうだ。登り終えて



樹林帯の中なので少し休憩する。風は依然止まないが時折青空が見えてきた。上に行けばきっと晴れるだろう。

黒檜の樹林帯を抜けると雪原に出た。雪は締まっていてチェーンアイゼンで全く問題ない。周りの景色もどんどん良くなる。雲が足早に駆けていくそのたびに青空が見え隠れする。気持ちよく雪原を登ると、ボコっと！？右足を踏み抜いてしまった体の半分埋ってしまった。ああそうだ、春だもんなあっと、穴を見直すと 2m 弱ほどの自然が作った落とし穴にはまったようだ。ここから先もありそうなので、大丈夫そうな場所を見ながら登る。

見上げると山頂が見えてきた。雪が落ちて、緑の草原のようにも見える。天気も良くなってきた、風も幾分おさまってきている。あと少しだ。これなら4時間守れたかな？などと思っているうちに広い稜線に出る。ここはしっかりと雪が残っている。確かに素晴らしい景色だ。標識を探しにピークに向かう。



(見上げると山頂が見えてきた)

ピークはハイマツに囲まれた狭い場所だった。一瞬風がピタリと止んだ。見回すと静寂の中に谷川の山々が見えてくる、あれは、万太郎か、あ、茂倉岳に一ノ倉、昨年秋に回った馬蹄形が見える。思わず見とれてしまう。空を見上げるとめまぐるしく雲は青空と曇り空を繰り返している。



(あ、茂倉岳に一ノ倉、昨年廻った馬蹄形もよく見えた)

早速標識を探す。小さな鉄板のプレートに小出俣山 1745m とあり、ダテカンパンの木に下がっているがこれではない。赤澤さんからもらったスナップ写真はもっと立派なものだった、もしかしたらここではなく下の広い場所かとも思ったが、だとすると探すには広すぎる。もらったスナップ写真をもとに

写っている山並みを見ながら場所を特定しようとするがよく分からない。それでもグローブを伸ばしてここぞと思う場所に差し込んでみるが、2mほど刺さった先は土の感触だ。何度か刺していると木のようなコツンと当たる感触になったがなんとなく違う気がする、それでもせっかく持ってきたシャベルなので掘り下げてみる。表面から10cm



(残念ながら、赤澤さんが昔設置したという標識は見つからなかったが・・・)

ほどで硬い締まった雪となりアルミの薄いスノースコップでは全く歯が立たない。30分ほどプローブで刺しては掘るのを繰り返すが無理そう。

標識は見つからなかったがこの素晴らしい景色がきっと宝物なので、持ってきたカップ麺を食しながら景色を堪能した。眺めも良いし次回は阿能川岳を廻る周回コースをのんびり一泊二日でやってみたいものだ。

名残惜しいが、降りることにした。下りの雪原はグリセードで降りることに。スキーのように滑降するのは気持ちが良いし早い。ハイペースで黒檜まで降りられた。巻道を使い雪のない場所に出ると登りに使ったマーキングが道標となる。下りの尾根下りはすぐに谷の方に向かいがちだが、これで最短に降りることができる。尾根を終え林道に出て近くの沢で靴を洗いながら、あらためて沢を眺める。なかなか良さそうな沢だ。この先を見てみたいものだ。

(了)